



2026年4月20日

各位

会社名 株式会社 J R C  
代表者名 代表取締役社長 浜口 稔  
(コード番号:6224 東証グロース市場)  
問合せ先 取締役副社長 常川 陽介  
(TEL 06-6543-8680)

## 2026年2月期 通期決算説明会における質疑応答(要旨)

当社は、2026年4月15日(水)に「2026年2月期通期決算説明会」をオンライン配信にて開催いたしました。本資料は、同説明会にご出席の皆様からいただいた質問をまとめたものです。なお、理解促進のため、一部加筆・修正を行い、要旨として記載しております。

### ■ 2026年2月期 通期決算説明会

日時: 2026年4月15日(水) 13:00~14:00

形式: JRC 大阪本社からオンライン配信

説明者: 取締役副社長 常川 陽介

### Q1. 中期経営計画の進捗と、想定比での上振れ・課題は？

A. コンベヤ、環境エネルギー(旧:環境プラント)、ロボット SI の各事業とも、概ね計画通り順調に進捗しております。

特に、高橋汽罐工業の環境エネルギーカンパニーへの統合により、同カンパニーの成長は想定以上に加速していく認識です。

一方、コンベヤカンパニーの海外展開(ベトナム製造拠点の新設)については、設備納品のリードタイム等の影響により、当初計画に対してやや遅れが見られており、今後の加速が課題と認識しております。

### Q2. ベトナム新工場の立ち上げ進捗と業績寄与のタイミングは？

A. 現在、本格稼働に向けた準備を進めており、自社の自動生産設備の搬入を経て、今期中の量産・出荷開始を見込んでおります。

業績面では、初期は設備投資や立ち上げ費用が先行しますが、現地生産によるコスト競争力の向上を背景に ASEAN 市場での拡販を進め、約3年後の黒字化を目指しております。

Q3. 環境エネルギーカンパニー強化の背景と投資の方向性は？

A. 高橋汽罐工業の持つ高度なメンテナンス力・現場施工力と、JRC C&M の設計・製造機能を統合することで、一貫通貫のエンジニアリング体制を構築することが狙いです。これにより、既存顧客への付加価値提供に加え、新規領域への展開を図り、案件の大型化と収益性向上を実現してまいります。

Q4. 売上成長に対し営業利益が横ばいに見える背景は？

A. 前期は、高橋汽罐工業の決算期変更により 14 か月分の利益が計上されており、一時的な押し上げ要因がありました。この影響を除いた実力ベースでは今期は増益を見込んでおります。また今期は、人的投資やベトナム工場立ち上げなどの先行投資を積極的に実施するため、利益成長を抑えつつ将来成長の基盤構築を優先しております。

Q5. イラン情勢による原材料価格上昇の影響は業績に織り込んでいるか？

A. 一部塗料や梱包資材などで価格上昇は見られるものの、主要原材料への影響は限定的であり、業績への大きな影響は現在のところ見込んでおりません。

Q6. 今期の M&A の見通しは？

A. 事業承継ニーズの高まりを背景に、案件の流入は増加しております。個別案件への言及は控えますが、各カンパニーの成長戦略に合致し、企業価値向上に資する案件については、今期も年間数件の実行を視野に積極的に検討してまいります。

Q7. 中計最終年度(2028年2月期)に向けた営業利益成長のドライバーは？

A. 主なドライバーは以下の通りです。

- ・ 環境エネルギーカンパニーにおける統合シナジーの顕在化
- ・ ロボット SI カンパニーの高成長継続

これらにより、営業利益の段階的な成長を見込んでおります。

Q8. 海外事業の現状と今後の見通しは？

A. ASEAN 市場を中心に引き合いは増加しており、営業活動は順調に進展しております。

一方で、現状は日本規格製品での対応に限られているため、ベトナム工場での海外規格製品の生産体制構築が重要なポイントとなります。同工場の稼働により、需要の取り込みが一層加速する見通しです。

以上